



2017年12月期 第1四半期決算説明資料

2017年5月9日

株式会社ツバキ・ナカシマ

(東証一部 6464)



免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載(推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます)が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。

本プレゼンテーション資料で使用された財務情報は、別途明記する場合を除き、国際会計基準審議会により策定された国際財務報告基準(IFRS)に基づき作成されております。

2017/5/9



目次

1. 2017年12月期第1四半期実績 P3



「一球一心」

一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。



「一精一誠」

誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



1. 2017年12月期第1四半期実績



2017年12月期第1四半期サマリー

目下中計にて取り組んでいる4(既存)+2(新規)の販売戦略が着実に貢献し、マクロ成長を上回る成長を実現

外的要因



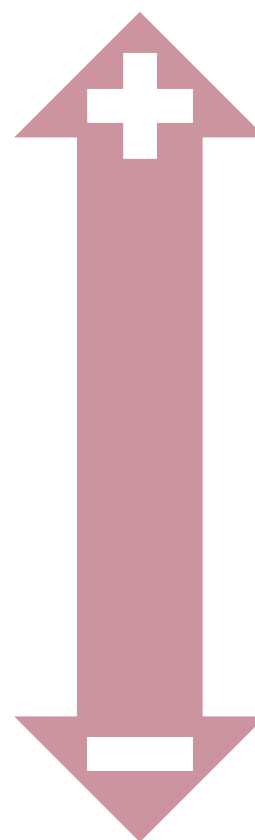
株式会社 ツバキ・ナカシマ

内的要因

工作機械関連は回復傾向

自動車関連は概ね想定通りに進捗

対前年同四半期に比べて若干の円高傾向



戦略的な取組の進捗によりマクロを超える売上成長

コスト改善やバランスシートマネジメントの継続的強化

2017年12月期第1四半期決算ハイライト



売上面

- 売上収益は4(既存)+2(新規)の販売戦略が順調に進捗し、前年同四半期比12.6%増(為替換算影響を除き16.1%増)とマクロ影響を上回る成長
- ボールビジネスは前年同四半期比12.7%増(為替換算影響を除き16.8%増)と堅調を維持

収益面

- 一時的な費用は発生したもののコスト改善も継続しており、営業利益は前年同四半期比4.8%増(為替換算影響を除き11.0%増)
- 親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同四半期比6.5%増(為替換算影響を除き11.3%増)

キャッシュ面

- 継続的なバランスシートマネジメントの強化によりフリーキャッシュフロー14億円を創出
- 2017年配当予想は年間64円(中間配当31円、期末配当33円)見通しに変更なし

2017年12月期1Q連結業績

前年同四半期との比較



当社として1Q初の売上収益100億超えを達成し、前年同四半期を大きく上回り中計1年目としての順調なスタート
(百万円)

	2016年度1Q	2017年度1Q			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
売上収益	8,939	10,065	▲313	1,439	16.1%
営業利益	1,627	1,705	▲100	178	11.0%
営業利益率	18.2%	16.9%	—	—	—
EBITDA	2,031	2,105	▲112	186	9.2%
EBITDAマージン	22.7%	20.9%	—	—	—
税引前利益	1,264	1,359	▲73	168	13.2%
当期(四半期)利益 (※1)	963	1,025	▲46	108	11.3%

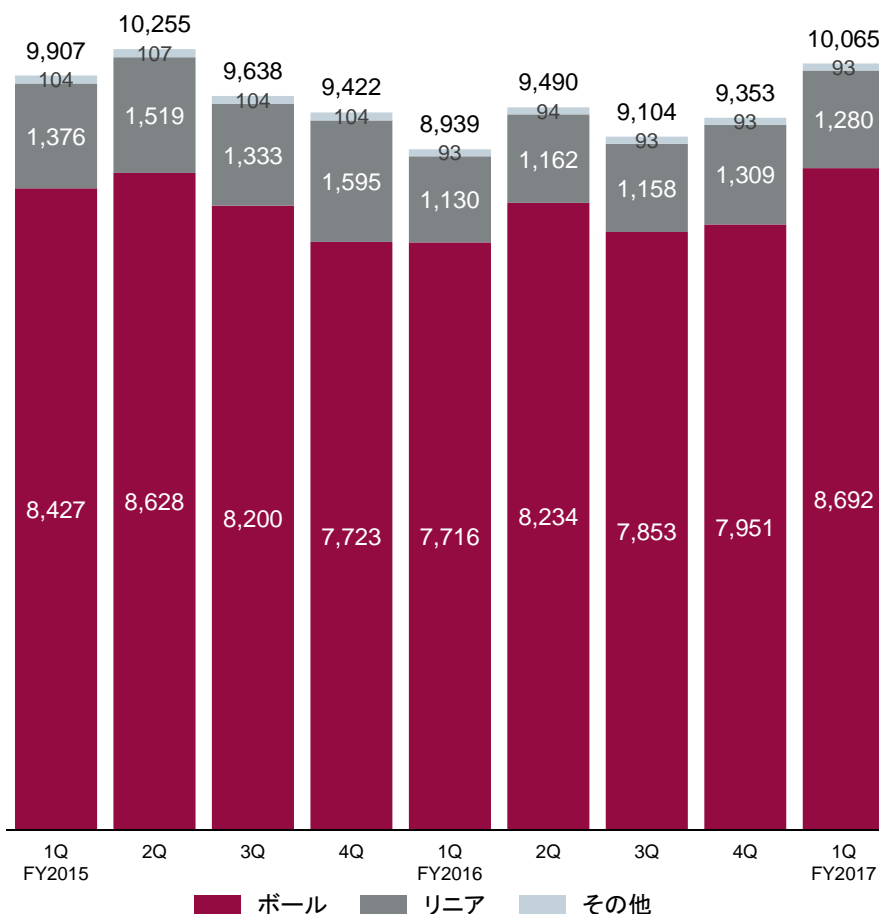
(※1)“当期(四半期)利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益”を記載しております。



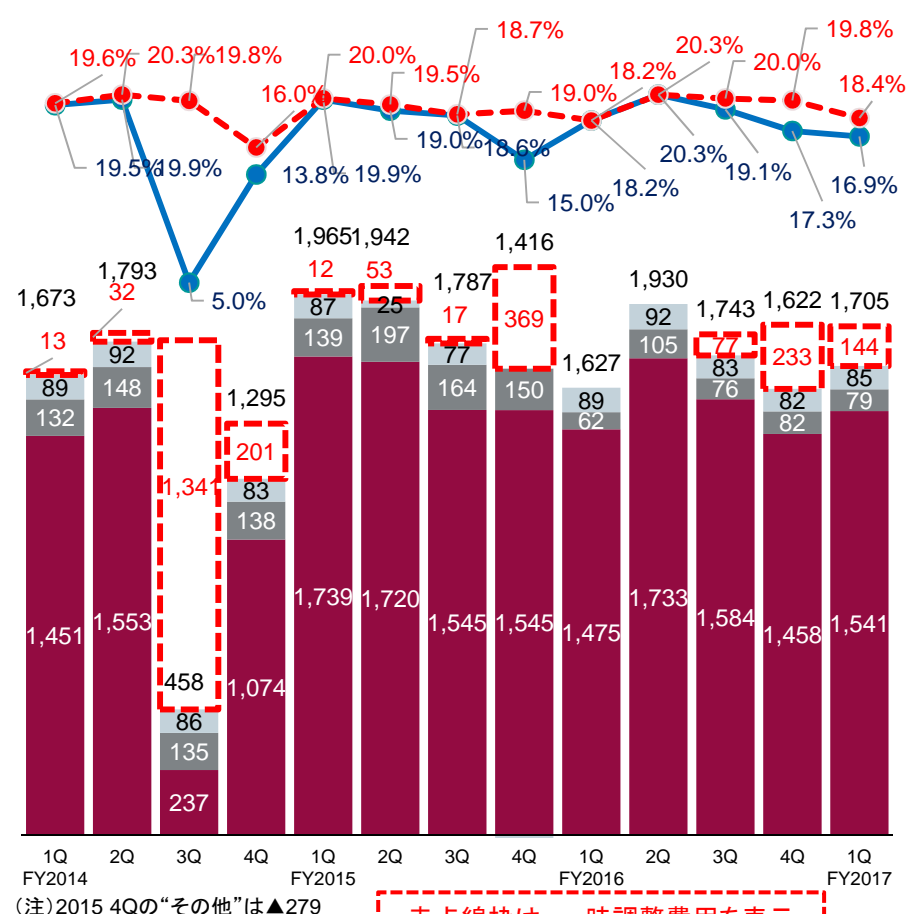
四半期グループ連結業績推移

売上収益は2016年1Qで底打ちし上昇トレンド、利益面についても引き続き高水準を継続

売上収益推移 (百万円)



営業利益・営業利益率推移 (百万円、%)



(注)2015 4Qの“その他”は▲279

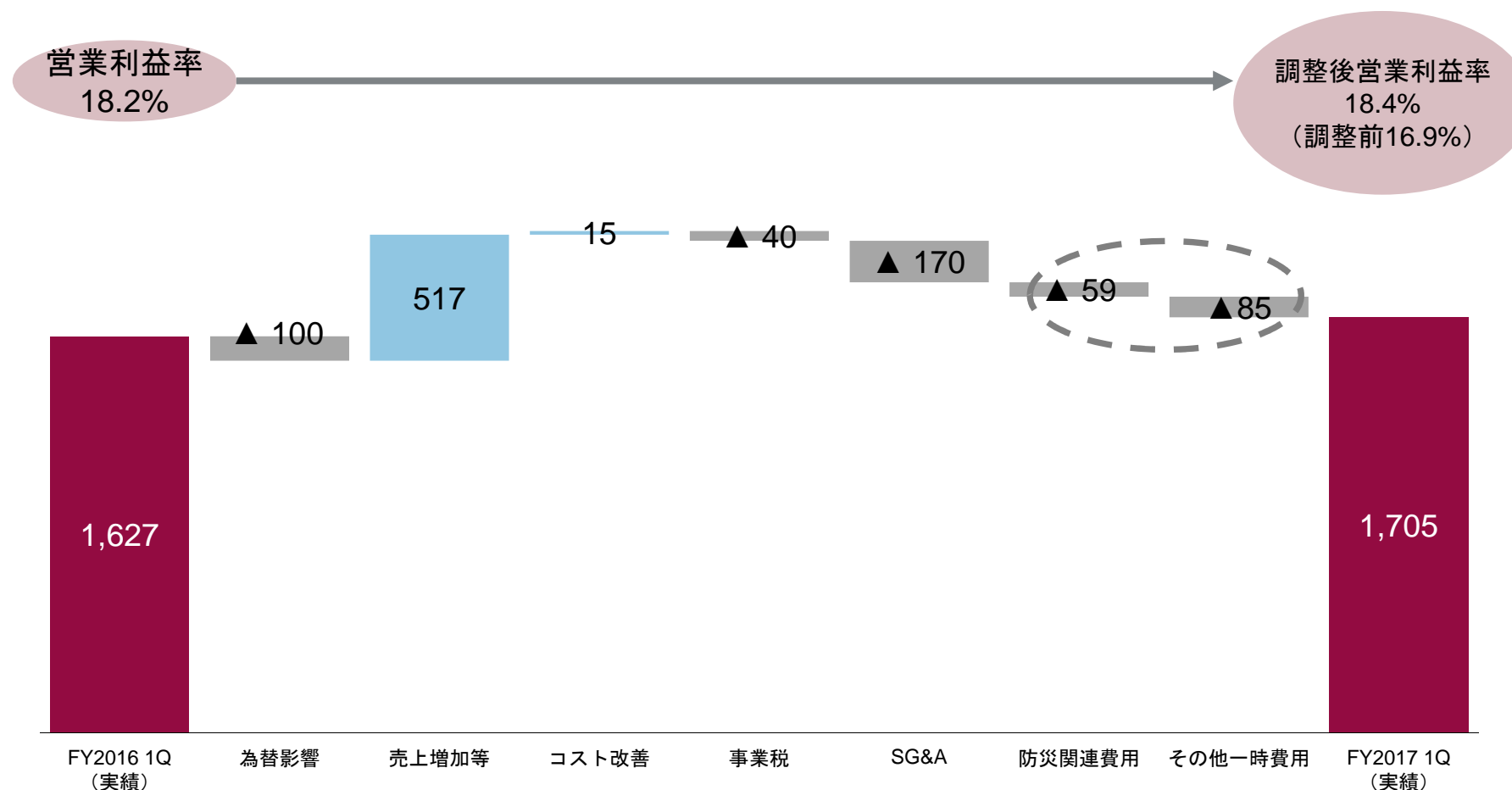
赤点線枠は、一時調整費用を表示



2017年12月期1Q営業利益増減要因分析

営業利益は、為替換算影響を除き対前年同四半期比11.0%増

営業利益(対前年同四半期比)



(※)調整後営業利益率は一時費用として“防災関連費用”及び“その他一時費用”を考慮して算出しております。

Copyright © 2017 Tsubaki Nakashima Co, Ltd. All rights reserved.

2017年12月期1Qセグメント別売上収益 前年同四半期との比較



ボールビジネス、リニアビジネス共に前年同四半期を大きく上回り、グループ連結ベースで売上収益16.1%増を達成

(百万円)

	2016年度1Q	2017年度1Q			
	実績	実績	為替換算影響	増減額 (除く為替換算影響)	増減比 (除く為替換算影響)
グループ連結	8,939	10,065	▲313	1,439	16.1%
ボールビジネス	7,716	8,692	▲318	1,294	16.8%
リニアビジネス	1,130	1,280	5	145	12.8%
その他	93	93	—	0	▲0.1%

2017年12月期1Q地域別売上収益(ボールビジネスのみ) 前年同四半期との比較



欧州／アジア地域(特に中国+46.5%、インド+25.9%)での拡販が順調に進捗

(百万円)

	2016年度1Q	2017年度1Q			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
日本	2,854	3,062	—	208	7.3%
北米	1,475	1,514	▲25	64	4.3%
欧州	1,635	1,713	▲175	253	15.5%
アジア	1,752	2,403	▲118	769	43.9%

(ご参考) 2017年12月期1Q地域別売上収益 前年同四半期との比較



(百万円)

	2016年度1Q	2017年度1Q			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
日本	4,056	4,336	—	280	6.9%
北米	1,475	1,514	▲25	64	4.3%
欧州	1,635	1,713	▲175	253	15.5%
アジア	1,774	2,502	▲113	841	47.4%

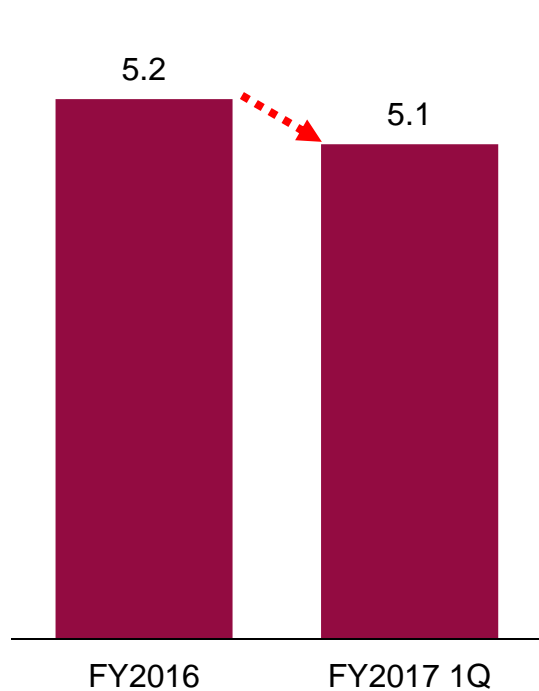


BS／CFにおける業績

バランスシートの適正なコントロールにより、安定したキャッシュフローの創出を継続

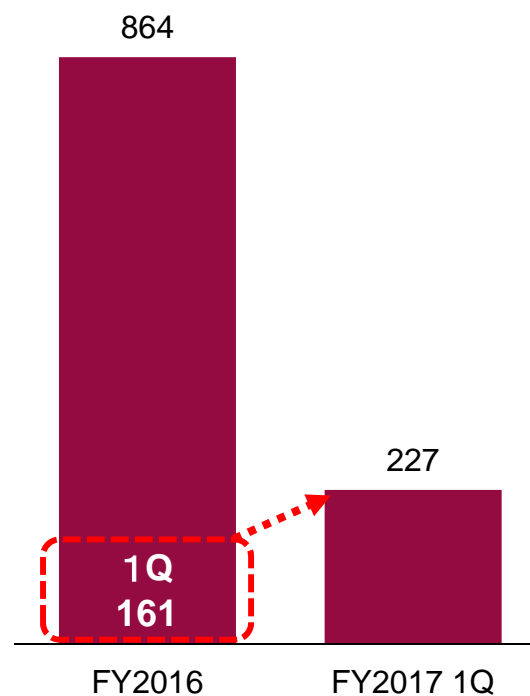
棚卸資産回転月数(月)

■ 昨年末の実績並みで推移



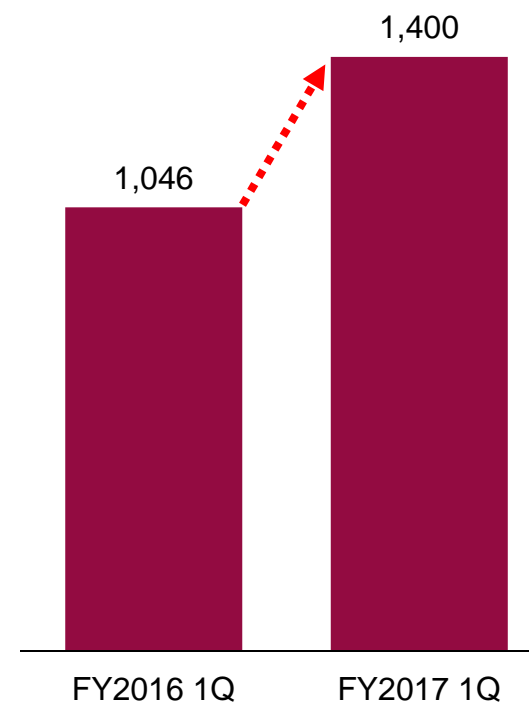
設備投資額(百万円)

■ 適正にコントロール



FCF(百万円)

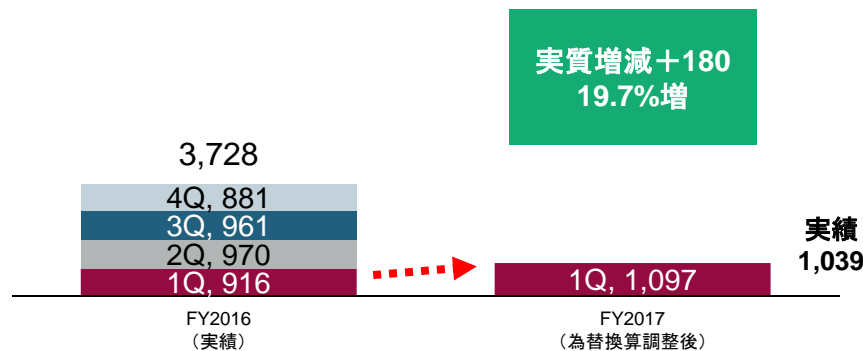
■ 確実にキャッシュフローを創出



2017年12月期1Q 4(既存)+2(新規)の販売戦略進捗

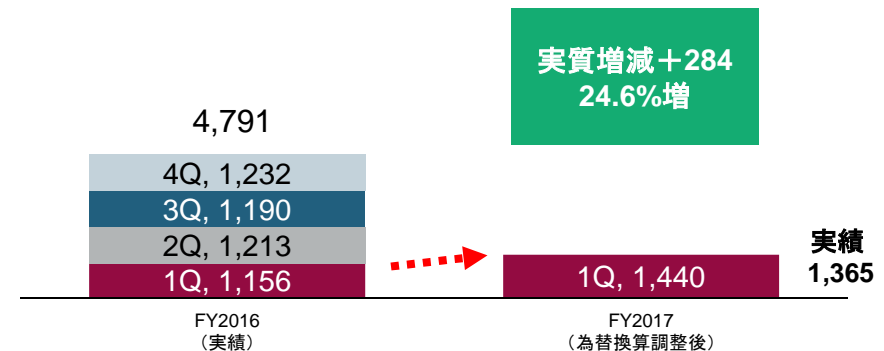


海外のお客様

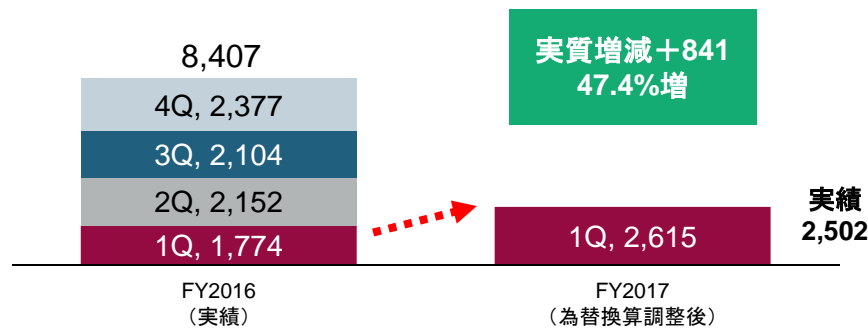


セラミックボール

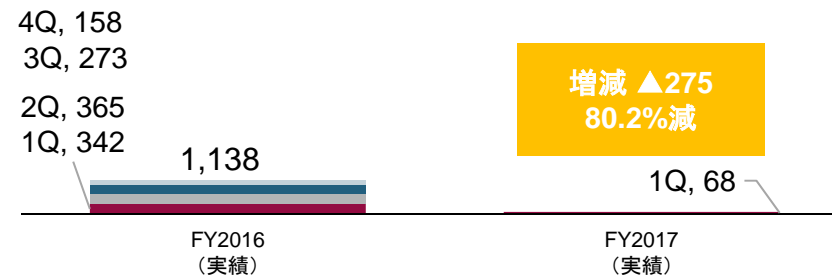
(百万円)



アジア市場



新領域



新イニシアティブ

